

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000903		
法人名	有限会社 Human-Hope		
事業所名	グループホーム自由の風 (ちゅうりつぷ)		
所在地	小樽市奥沢2丁目10番18号		
自己評価作成日	平成22年6月20日	評価結果市町村受理日	平成22年8月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは利便性を重視した環境の中にあり、近隣のスーパーや商店・飲食店に囲まれ地域の人々とのふれあいと生活感、そして尊厳のある、温かい暮らしを提供して居ります。
 又、入居者様と御家族の皆様とのふれあいを大切にし、明るく笑顔の絶えない安らぎの時間を過ごして頂けるよう、職員一人一人が心あるケアで生活のお手伝いをさせて頂いて居り、サービスの質の向上に努めて居ります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172000903&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成 22 年 7 月 26 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

人として、優しい心で築かれたサービスという器(うつわ)の中で、法人代表者、本部役員、ホーム長、管理者、そして職員の総てが、利用者本位という基本理念に沿って、より大きな、より深い器づくりに取り組んでいるエネルギーを肌で感じることが出来ます。毎月の定例全体会議では、担当が決められている「サービス」「身体拘束防止」「防災」「広報」など、6つのポジションの担当者が提案を行い、全体で協議しながら目標の一つに絞るなど積極性が特筆されます。町内会役員の方々の大きな支援を得ながら、災害対策は強力で推進されており、運営推進会議の議事録にも前向きな発言、また実践がしっかりと記録されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて居る (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で意見を出し合い地域の中で利用者がその人らしく暮らせる事を大切にした理念の構築をして居り、又、理念の意図する事を理解した上で全職員が同じ方向を向いてケアに取り組んで居ります。	職員全員が、利用者が地域の中にあってその人らしい暮らしを継続し、かつ支えることを謳った理念の根幹を良く理解し実践されています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通じて町内会との関わりを深め、地域のお祭りや小学校の運動会等各行事への参加や、当ホームでの避難訓練に地域の皆さんに参加して貰う等をして相互間の交流を実施して居ります。	町内会の理解、地域ボランティアの協力、また小学校の理解を得ながら様々な行事に参加しており、地域との付き合いの中から利用者の笑顔が輝いて見えます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて認知症の勉強会を行い、町内会や民生委員から会報や役員会で情報を発信して頂き、又、認知症介護についての相談も呼び掛けて頂いて居ります。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際には利用者の日常や現場の職員の様子を自由に見学して頂き、ホームとしての取り組みについて率直な意見・感想・疑問等を伺い、速やかな問題解決とサービス向上に努めて居ります。	運営推進会議のメンバーには、会議の際のホーム内の見学や防災に関する避難訓練の視察と講評など、ホームの運営に参加しながら、サービスの質の向上に取り組む姿勢が評価されます。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	職員の中から意見や疑問が生じた際には、介護保険課を主とした市町村に相談し助言を頂いて居ります。又、市主催の研修への参加、介護保険課内に当ホームのパンフレットを置かせて頂く等、相互協力に努めて居ります。	4箇所グループホームを統括する本部役員は、各ホームの状況を伝えるため、日常的に市の担当窓口を訪ねており、理解と協力を得ながら連携を強化しています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し定期的に会議や勉強会を行い、積極的に外部での研修会にも参加する事で代表者及び全職員への正しい理解に繋げて居り、安全重視を前提とした施錠の無い自由な暮らしの支援に取り組んで居ります。	全体会議や担当者会議での勉強会では、常に問題意識を持ちながら、ケーススタディによる自己のサービスを振り返るなど、身体拘束防止や虐待防止に反映させています。玄関の施錠も一切せずに見守りを第一としています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束防止委員会を設置して居り、虐待に関する外部研修への参加や情報収集、それらを元にした勉強会や研修報告を毎月の全体会議の場で行い、正しい知識の会得と見逃ごしの無い職員関係作りに努めて居ります。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援についての勉強会の実施や成年後見人制度の研修参加での報告会等で、全職員に権利擁護を学ぶ機会を提供し、周知に努めて居ります。又、必要時には速やかに制度を活用出来る様に対応して居ります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約解約時には本人と家族への意思確認を行い十分な時間を掛けて丁寧に内容説明をしながら、随時不明な点を確認した上で理解・納得と同意を頂いて居ります。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	適時各ユニットの管理者及び計画作成担当者が利用者の意見や不満・苦情を聞いて居り、又、全職員で本人や家族が気軽に話せる距離の無い関係作りに取り組み運営に反映させて居ります。	このホームは、家族の訪問頻度が非常に高く、家族と職員の意思疎通が良くできています。職員は家族の意見や要望を逐一「家族面会簿」に記入してホームの運営に反映しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議を開催し、代表者や管理者が職員一人一人の率直な意見や提案を聞く時間を設けて居ります。代表者や管理者は職員と日々コミュニケーションを図り、信頼関係の構築に努めて居ります。	毎月の定例全体会議では、法人代表者や本部職員なども交えながら率直な意見交換が行われています。また、ホーム長、管理者は職員との日常の会話を大切にし、意思疎通を図っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に関して必要な協力を行い、資格に合わせた給与体制を確保して居ります。又、代表者も積極的に介護現場に足を運んで常に近い距離で職員一人一人の意思や意欲、仕事の様子を見詰める事で状況を把握して居ります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社として経験に応じた職員育成の勉強会や管理者育成の機会を設けて居り、外部研修に関する情報も積極的に提供して全職員へ参加を働き掛ける等、人材の育成に取り組んで居ります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当社系列のグループホームとの合同行事や勉強会にて職員同士の交流・意見交換が出来る場を提供し、又、他グループホームとも外部研修や行事等へ参加出来る機会を設け、サービスの質を向上させる取り組みを行って居ります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前には必ずホームの様子を本人に見学して頂き、生い立ちや生活歴を把握した上で心配事や希望を傾聴して受け止め、納得・安心の下で利用して頂ける様に努めて居ります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談段階よりゆっくりと時間を掛けて家族の思いを傾聴し、実際にホームを見学して頂いた上でも意見や疑問点を伺いながら、家族の立場に立って求めている事を汲み取る様に努めて居ります。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時は家族や本人の思い、必要としている支援を最大限に尊重した上で必要性の度合いや早急性を見極めて居り、必要に応じて他のサービスにも柔軟に対応出来る様に努めて居ります。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員という立場を忘れずに居ながら、一緒に暮らす家族として愛情を注ぎ、又、人生の先輩として敬意を払い、毎日を共に過ごす中で喜びや哀しみも共感し合える関係作りを大切に居ります。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時や広報、書類郵送時に手紙や写真を添える等をして常に本人の生活状況を伝えて居り、ホームの行事や会議への参加を呼び掛ける事で本人に必要な支援を一緒に考えて頂ける様に取り組んで居ります。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの友人・知人が気軽に来訪出来る様より良い関係の継続に努め、住んでいた町や思い出深い場所へも外出時には立ち寄る時間を提供出来る様な支援を行って居ります。	利用者がこれまで馴染んできた病院、医師、理美容院などへの通い、また、以前に住んでいた地域への立ち寄り、毎月お参りに来られるお坊さんへの支援など、馴染みの関係の継続支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士で互いの居室を自由に行き来して会話を楽しんで頂ける様な雰囲気作りや、一人一人が孤立しない様他者との関わりが苦手な利用者には職員が媒体となって交流のきっかけを作り、関係構築に努めて居ります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も本人に会いに行ったり家族や関係機関から情報を貰う等をして必要に応じてその後の支援に努め、家族には近くに来た際気軽に立ち寄って頂ける様な関係性を入居中から構築して居ります			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思を伝える事が困難な利用者とは意識的に関わりを多く持つ様に心掛け、言動や表情から本人の思いや希望を汲み取り、把握する様に努めて居ります。	利用者の言動や表情の観察により、思いや意向の把握に努めますが、利用者との心の通じ合いを大切に捉えており、利用者本位の検討が日々行われています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関係者から趣味嗜好や習慣、価値観等、これまでの生活状況の情報を集め具体的な把握に努めて居ります。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の血圧体温測定及び食事・水分摂取量等で健康状態を確認するのみならず、日々の過ごし方やADL、心身状態も含めて全体を把握出来る様努めて居ります。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いや家族の希望・意見を伺い、職員全員が一つのチームとしてアセスメント・意見交換・モニタリング等を行い、より良い暮らしを提供する為の利用者本位である介護計画作成に努めて居ります。	暮らしの中で、できること、できないことを見極めて、ケアプランができています。利用者と家族の意見も伺いながら、プランの目標を簡素化して職員全員のモニタリングが継続されています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の個別ファイルに暮らしの様子を分かり易く記録し、職員の気づきやアイデアをミニカンファレンスを通して情報共有する事で実践や介護計画に繋げて居ります。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院送迎やその他の状況、又、本人や家族の要望等、その時々で臨機応変に対応出来る様、事業所として柔軟な体制作りを行い支援して居ります。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じて民生委員やボランティア、地域の他サービス事業所・ケアマネージャー等、日頃より様々な機関と協力体制を整え支援して居ります。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者にかかりつけ医の確認をし、本人や家族が希望する病院にて適切な医療が受けられる様に医療機関と連携を取りながら対応し、支援して居ります。	利用者や家族と相談して、従来のかかりつけ医での受診を大切に適切な治療が受けられるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームの訪問看護師や協力病院の看護師に日々の様子や体調の変化を報告し、助言や指示を貰う事で情報交換を行い、利用者一人一人に適した医学的管理の実施に努めて居ります。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院に際し、本人の習慣やホームでの生活状況を報告し入院中も職員が会いに行く等安心感を持って頂ける様に努めて居ります。又、早期退院にも向け速やかに対応出来る様、医師との情報交換や相談を行い連携を取って居ります。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合やその危険性がある場合、変化があった時には医師に相談し必要時には家族に伝えて居ります。又、予め本人、家族、医師と共に方向性を話し合い方針の共有に取り組んで居ります。	重度化や終末期における対応指針を入居時に家族へ細やかに説明しており、状態の変化時には家族、医師を交えた話し合いが度々行われて方向性を共有した支援が行われています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホームの看護師による指導やマニュアルの下、応急手当や初期対応の勉強会を行い、又、急変や事故の危険性を念頭に置いた介護を実践し緊急時に備えて居ります。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制度を築いている	日中・夜間、出火元、各フロアでの職員の役割等、具体的設定下で定期的に消防の避難訓練を実施して居り、地域協力者も避難誘導方法について一緒に訓練を行い非常時に備えて居ります。	昨年の課題であった地域住民の方々の協力及び災害時の非常用備蓄品は、すべて改善されています。地域住民の方々の関心の高まりによる避難誘導などが実施され、本年度はスプリンクラー設置も実現します。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホームでのサービス担当者会議や勉強会にてプライバシーや人権について話し合い職員の意識向上を図り、敬意を払って利用者に接して居ります。	サービス担当の会議や勉強会で度々取り上げ、日々のサービスに職員個々の対応を反省しながら、プライバシーや個人の尊厳への意識向上を図っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の都合や一方的な判断の無い利用者本位の支援に努め、本人の思いを汲み取り自己決定を尊重したケアを実践して居ります。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々利用者の思いや希望、一日の過ごし方や生活習慣等を考慮し、利用者の側に立った個別の暮らし作りに努めて居ります。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え時には本人の好きな衣服を選んで頂いて居り、理美容も本人が希望する店に行ける様支援して居ります。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	安全に配慮した上で利用者と職員と一緒に野菜の皮むきや食器洗いを行い、食事への関わりを持つ機会を提供して居ります。	食事は利用者と職員と一緒に食卓を囲み、和やかな一時となっています。利用者の可能な範囲で食卓拭きや食器洗いも行なっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	適時食事・水分摂取量をチェック表に記録する事で日々の摂取状況を全職員が把握し、栄養士作成の献立の下十分な栄養と水分の確保に繋げて居ります。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生の勉強会等で全職員が適切な技術会得に努め、利用者の状況に応じて職員が口腔ケア介助をして居ります。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンの観察と排泄表での状態把握、表情や仕草による尿意のサインでのトイレ誘導を行い、おむつに頼らない排泄、トイレでの気持ちよい排泄に努めて居ります。	排泄は利用者のパターンを良く把握し、トイレでの自力排泄の支援がゆっくりとした雰囲気の中で進められています。便器の配置も向きを変え、利用者の状態に適合する配慮も見られます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排便状況と水分摂取量を個別に記録して居り、職員全員で運動や腹部マッサージ、食事内容・水分量調整、医師への相談等その人に合った対応をして居ります。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者一人一人の希望日・時間に合わせて入浴が出来る様環境を整えて居り、又、同性介護を希望する利用者には受け入れられる職員体制を整えて居ります。	入浴は利用者の意向に沿った支援が行われています。利用の当初は羞恥心や恐怖心に配慮しながら、楽しめる入浴の支援をしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調や希望に合わせて日中の出来る活動に参加して頂き、適度な疲労を感じる事で安眠を生み昼夜逆転防止となる様、努めて居ります。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人の既往歴の把握と、処方薬の説明書や医師・薬剤師の説明を受けて薬の内容を理解し、症状変化時には医師へ報告をして居ります。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や趣味・習慣を把握し、一人一人の個性に合った役割や活動に参加出来る機会を設け、喫煙や買い物等も楽しめる環境を提供して居ります。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に沿って散歩や家庭菜園、洗濯物干し、買い物等日常的に参加出来る環境を整えて居り、又、年間を通じて四季を感じて貰える様な外出行事も実施し、家族や友人の参加も呼び掛け支援に努めて居ります。	利用者の希望に沿った散歩や買い物など、閉じこもり防止の支援が行われています。隣接のスーパーや向かいのドラッグストアへは、毎日出かける利用者もいます。遠方へのドライブも大きな楽しみとなっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者にはホーム入居時に家族の了解の下で小額のお金を持って頂いて居り、一人一人が自由に安心して買い物出来る様支援をして居ります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙に制限は無く好きな時に連絡を取れる環境にして居ります。又、自分で直接行動を取れない場合でも職員が電話発信や郵送を代行し対応して居ります。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の設備や備品などは利用者に配慮した程よい室温・明るさ・色調等にして居ります。年間を通じて季節感のある花やお飾りをホーム内の各所に置き、トイレには子犬の愛らしい写真、廊下には行事でのスナップ写真を貼り出し、穏やかに暮らせる為の工夫をして居ります。	玄関、居間、食堂など違和感のない配慮で、利用者はゆったりとした暮らしが継続されています。ソファの配置、壁を彩る絵画や写真など、季節感と家庭的な雰囲気が漂います。ホーム内は隅々まで清掃が行き渡り、開設5年の経過を感じない新鮮さがあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各ユニットのフロアには三人掛けソファを三脚、廊下の突き当たりや玄関先にも椅子やベンチを設置し自由に好きな場所で過ごせる工夫をして居ります。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には今迄の生活で慣れ親しんだ物をなるべく持って来て頂く様に、本人や家族に説明して居ります。同意があれば自室に活かし居心地よく過ごして頂ける様、支援して居ります。	居室は、利用者が持ち込まれた家具や調度品が、整然と置かれ、また賑やかな親しみのある居室となっています。家族の写真や絵画、縫いぐるみ、仏壇などが見られます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内では場所の表示や時計・カレンダーを多く設け利用者に混乱を与えない工夫や、各所の設備を使い易く調整し安全面と残存機能を生かせる環境作りに努めて居ります。		